

越前町議会・令和5年12月定例会一般質問【笠原秀樹議員】

(令和5年12月7日 午前10時1分 開始)

○12番(笠原秀樹君) 映画「おしよりん」、大変好評ということで、非常によかったと思っていますが、また、越前町全体がそのロケ地になったのではないということもちょっと寂しい思いもあります。当町としましても映画撮影公営負担金300万円拠出をしています。これに対して、どれだけの経済効果があったかは分かりませんが、これから期待をしたいと思うところでございます。

また、それと同時に上映されました「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」、これも私も鑑賞しましたが、あれだけか騒ぎの映画でも、埼玉県、滋賀県の両知事は歓迎の言葉を述べられておられます。

やはり、あれ、どれだけの経済効果があるかと、これは「おしよりん」をはるかに超すんじゃないかなと私は思いますが、今まで木村議員も質問のたびに、越前町全体を映画のロケ地にとか、あるいはのど自慢の会場誘致なども提案をされてきておられます。これらもやはり全て越前町のPR、イメージアップ、さらには観光客の増加、また移住定住の促進につながればという強いお考えの下での提案であったと私は思いますが、いずれにしても、町単独では難しいことがあるかもしれませんが、県とタイアップして少しでも実現するとしたら、すばらしいなと思うところでございます。

それでは、通告書に基づき質問をいたします。

まず、新年度の予算編成に当たっての町長の取組みについてをお尋ねをいたします。

町長は、町長選に臨むに当たりまして、議員時代に、このままでは越前町がなくなってしまう、強い危機意識をお持ちになられまして挑戦をされまして、見事当選をされました。今日まで町政の刷新に尽力されてこられました。しかし、1期目ですので、前政権の継続事案、また交付税が年々減少するなど、厳しい財政状況の中で、恐らくご自身が描いてこられた案件の進捗、全てはできていないのではないかと考えます。

しかし、そんな中でも、実現に向けての進行中や現実に成果が見られている事案が当然あります。お答えはいただきたいと思っております。

そこで、任期があと1年余りになりました。本格予算を組めるのは新年度、来年度が最後になるかとは思いますが、その予算編成に当たっての強いお気持ちを伺いたいと思っております。

それは、なぜお聞きしましたかといいますと、山梨県に市川三郷町という町がございまして、10月に初めて当選された町長らしいんですが、住民説明会を開かれまして、現状のままでは7年後には町の財政が破綻しますという報告を出しています。そこで、財政非常事態宣言というのを出したそうでございます。

この町は、2005年には人口が1万7,900人、2022年には1万4,800人と減少をしています。税収も2005年には19億5,000万円あったところが、2022年には16億6,000万円と苦しい状況が続いておるところでございます。

この町も4つの市町が合併したそうで、ほかの町では今日までにいわゆる公共施設の統廃合に取り組まれまして、3町合わせて425物件ありました公共施設を、

54件の統廃合を進めまして371件までにしたそうでございます。しかし、この三郷町では、46件ありました公共物件が、減らしたのは1件のみだったということだそうです。

現町長、当然初当選で、まさかこんなことになるとは思っていなかったという発言もありましたが、5期務められた前町長は、何があったのか分かりませんが、その取組みをしてこなかったのが今のツケに回ったのではないかなということも皆さんから言われているそうでございますので、そういうことに越前町、なつてはならないと私は思いますので、それらを含めた町長の新年度予算に対する取組みについてお尋ねをいたします。

○議長（佐々木一郎君） 町長。

○町長（青柳良彦君） それでは、笠原議員のご質問にお答えをいたします。

まず、政策の実現に向け進めていることや成果について申し上げます。

私の掲げた政策につきましては、若い世代の町外流出が加速し、人口減少や少子高齢化が急激に進み、各分野に様々な影響を及ぼしていることから、ここで大きくかじを切らなければふるさと越前町が取り残されるという危機感を覚え、様々な悪影響を断ち切るためにも、定住促進策や少子高齢化対策、子育て支援策などを就任以来、一貫して全力で取り組んでまいりました。

政策の主な取組状況として、少子化、子育て支援策については、子どもの医療費助成の対象を令和3年10月診療分より高校3年生相当まで拡大し、本年度からは、保険適用医療費の自己負担額を無償化いたしました。さらに、町内小・中学校の学校給食費無償化については、昨年度は3学期分を、本年度は2、3学期分を無償化し、令和6年度には完全無償化に向けて取り組んでいきます。

高齢者の生活支援策については、身体的に不安のある方を対象に、看護小規模多機能型居宅介護事業所を併設した越前町型サービス付高齢者向け住宅を令和6年春オープンを目指し、地域医療振興協会と連携して整備を進めています。さらに、高齢者の交通支援については、コミュニティ交通体系の見直しを行い、デマンドタクシー、チョイソコえちぜんを導入し、利用者の利便性の向上を図っています。

移住定住支援策については、奨学金返済の支援について、本年度に制度を創設し、令和6年度から実施してまいります。また、持ち家住宅建設促進事業により若者が本町へ移住定住していただくために、新築住宅に係る助成制度の創設や、空き家・空き地情報バンクの創設などの支援を進めています。旧丹生合同庁舎跡地の利活用についても、定住促進の観点から、住宅用地の造成を含め有効活用を検討しています。

小・中学校の再編については、小学校は引き続き協議を重ねながら進めていきます。中学校につきましても、当初の基本方針案を前倒しして協議を進めています。

以上、進捗状況について主なものを述べさせていただきました。

次に、令和6年度当初予算編成に当たっての方針について申し上げます。

本町を取り巻く環境は依然として厳しく、課題が山積している中で、何が必要かを見極め、小さく賢く成長していくことが大切であると考えています。これまで私が提案したマニフェストに基づき事業を推し進めてきましたが、次年度は任期最後となりますので、検討しているものや実現できていないものについては、強い決意を持って事業に着手してまいります。また、マニフェスト以外にも、公共施設等総合管理計画に基づく施設の統廃合など、総合的に取り組んでまいります。

そのためにも、歳入においては、ふるさと納税のさらなる拡大を図るなど財源を確保し、歳出においては、事業の取捨選択と歳入に見合った行政運営を進めてま

いりますので、ご理解とご協力をお願いいたします。

○議長（佐々木一郎君） 笠原秀樹君。

○12番（笠原秀樹君） 今、町長の答弁をお聞きしました。

厳しい行財政の中で、僕はすばらしい成果を収めながらもまた前進していると確信をしているところをございまして、高く評価をしたいと思えますし、これからはしっかりとしたかじ取りをお願いしたいと思うところをございます。

さっき質問の中でいたしました市川三郷町のようなことが、全国の市町でも起こらないとは限らないということをおっしゃっております。交付税の減額、これは急にじゃなしに、何年後にじわじわと効いてくるとおっしゃっております。また、その説明会の中で住民の皆さんからは、また住みにくくなる、いわゆる夕張を思い出すという発言も出ておられたところをございまして、これからどうするかという、サービスの向上は、もちろんサービスがだんだんと低下していきではないかと心配もありますし、そして今後、子どもにそのツケが回るようなことがあってはならないという声も出てきておりました。

町長は、今後ふるさと納税をさらに増額するように努めたいと、あるいは観光の超活性化を目指していくということをおっしゃられておりましたけれども、そういうことには絶対になってほしくないという思いは私も強く持つところをございます。

今まで私も質問の中で、公共施設の統廃合を少しでも早く進めていただきたいという思いで質問をしたところをございます。私、1年生の議員のときに、鯖江市の、今は違いますが、牧野市長とお話をしたところをございました。そのときに市長は、もう公共施設の管理運営を行政がやったら、これはもう行政はたまったものじゃないと。とてももたないというお話をされていたのが、いまだに強く思い起こされるところをございます。

今、11月の月例会の総務部の報告の中で、新年度予算に対する取り組み方、指針について報告がありました。公共施設等は中長期的にと、削減に向けてとありましたが、中長期じゃなしに、もう短中期にでも取り組んでいただきたいという強い思いをございます。国の助成、県の助成、これがある以上は、使われなくなっても何年かは手をつけられないとかという報告を聞いたところをございますが、これはもう町だけでなしに県も、僕は要らないものをいつまでも置いておくこと自体がおかしいのではないかなという思いをございますので。もちろん財政が破綻するということに関しては、これは公共施設等の改善、統廃合だけではないと私は思います。思いますが、どこかでやはりかじ取りが間違っただと私は思います。

それと、町長、来年度は、未来に輝く越前町のさらなる躍進に向けた予算ということをおっしゃに述べておられます。やはり、本当に町民ニーズに対応した施策、越前町の公共施設等の統廃合管理も含めて、これはもう避けて通れない。私は思います。

子ども・子育て支援ですけれども、私も知っている人とお話するときあるんですが、「笠原さん、うちの息子も3人とももう出て行ってまうんや」と、子育ての前の結婚する若い人がいなくなってしまうと。少なくなってしまうというのが今もうよく話に出てくることじゃないかなと思いますので、とにかく越前町に住みたい、ここで結婚して子どもを産んで、そして生涯住み続けたいと、そういうような越前町でなければならないと私は思います。

今、先ほど披露しました「翔んで埼玉～琵琶湖より愛をこめて～」のあの映画なんかも、埼玉県の一映画館では1日に20回放映、そして滋賀県ではなんと23

回、もう「おしよりん」も、あれ僕も見に行ったときには6回ぐらいやっていたが、各段に違いますので、その辺のところも含めて、さらに町長にはトップセールスとして越前町の発展のためにご尽力をいただければと思います。

今回限りということではなしに、次なる挑戦にもしていただくことを強く期待をいたしまして、質問を終わります。

(午前10時20分終了)